

常磐公園 植栽計画市民ワークショップ(第4回) 会議録

- 日時 : 平成 27 年 1 月 27 日 (火) 18:30 ~ 20:00
- 会場 : 旭川市保健所 1 階講座室
- 出席者 : 地域住民 14 名
 専門家 3 名 (オブザーバー)
 事務局 7 名 (旭川市公園みどり課 3 名、(株) 建設技術研究所 4 名)
 傍聴者 5 名
- 配付資料 : 議事次第
 第 4 回 常磐公園 植栽計画市民ワークショップ 説明資料
 植栽計画平面図 (素案)

会議録

開会・挨拶後、これまでのワークショップと同様に、ワークショップの目的と全体スケジュール、本日の進め方について説明がなされた。また、前回のワークショップの振り返りが行われ、相反する意見も幾つかの項目で出されていること等が報告された。

続いて、前回のワークショップの意見を踏まえた、植栽計画及び植栽平面図の修正案について説明がなされた。説明の中では、再整理された基本方針が改めて提示され、その後、修正案についてグループ討議が行われた。

討議では、修正案の基本的な方針についての指摘はなく、市民花壇の設置の必要性や、遠く離れた場所からの土砂の搬入、植栽直後の状況についての懸念等、具体的な植栽方法やこれまでに出た意見への対応に関する確認等の意見が多く出された。一方で、「公園全体を今後どうするかの視点を反映して欲しい」等の、常磐公園全体との関わりに関する意見もあった。討議された内容について、グループ別に発表が行われた後、専門家の講評がなされた。

最後に、今後のスケジュールや、ワークショップの意見を踏まえた植栽計画 (素案) を作成中であり、次回ワークショップで提示する予定であること等の連絡が行われた。

■ Aグループ

植栽計画

花があって季節を感じる計画になった
全体にバランスの良い計画になった
花壇については市民参加促進のため計画したが、全体の調和を考慮した場合は無くてもいいと思う。目線に近い位置にあるためその点ではいい
常緑樹をもう少し増やしてはどうか
植栽直後はさびしいのではないかと、断面図など立体的に見たい
ヤナギの種は、周囲の樹林エリアに入ってくるがそれも残すのがよい
ドロノキは倒木の危険があるので、安全面に配慮して欲しい、安全第一に考えて欲しい
法面を盛土する土の確保は大丈夫か、市内 or 周辺から持って来てほしい。
花粉症の問題がありシラカンバの植栽は検討が必要

その他

ツル植物が与える害・ドロノキの安全性・合成案の是非など対立する点の議論が参加者で十分にされていないのでは、後にこんなはずでは・・・ということにならないかが心配、進行がやや拙速
全体像の問題が出されている中で、本計画地が先に決まってしまう、他の広大な場所が「決まってしまった場所」に合わせて計画しようとした時に制限されてしまわないかが心配
公園全体をどうするのか？という視点で考えて欲しい(そういう機会を設けて欲しい)

■ Bグループ

植栽計画

修正案は100点満点ではないが概ね評価できる
多様な樹種を植えているのが評価できる
サクラは散らした配植で良い
サクラはチシマザクラを入れてはどうか、シウリザクラも良い
全部が成長したとすると、樹冠がやや混みすぎている
樹冠の大きさの設定に多少違いがあるように思う
苗木の高さ(3m程度)は、もう少し大きい方が良いが費用はかかる
40~50年後に新たに更新することを明記してはどうか
自然更新ゾーンは、ハルニレ等の生長過程を観察できるゾーンとして良い

その他

公園全体の樹木本数を半分位にしてはどうかという考え方もある
生態系は自然発生的に後から付いてくるもので、最初から狙って作るのは難しい。
樹冠の重なりや階層構造をより分かりやすく理解できるように、立体的に樹林の形成過程を見せて欲しい